

【公報種別】特許法第 17 条の 2 の規定による補正の掲載
 【部門区分】第 6 部門第 1 区分
 【発行日】平成 19 年 5 月 10 日 (2007.5.10)

【公開番号】特開 2000-234980 (P2000-234980A)
 【公開日】平成 12 年 8 月 29 日 (2000.8.29)
 【出願番号】特願 平 11-38145
 【国際特許分類】

G 0 1 M 1/16 (2006.01)

G 0 1 M 17/02 (2006.01)

【F I】

G 0 1 M 1/16

G 0 1 M 17/02 Z

【手続補正書】

【提出日】平成 19 年 3 月 20 日 (2007.3.20)

【手続補正 1】

【補正対象書類名】明細書

【補正対象項目名】特許請求の範囲

【補正方法】変更

【補正の内容】

【特許請求の範囲】

【請求項 1】タイヤを回転部に取り付けて回転させ、

前記タイヤに回転ドラムを押し当てると共に、前記ドラムが前記タイヤから受ける反力を測定する試験装置を用い、

前記タイヤの前記回転部に対する回転方向の取付角度を変えながら、前記測定を所定回数行い、

複数回の測定により得られたデータを記憶し、当該記憶データを合成することによって、

測定結果から前記回転部の偏心とゆがみの影響を除去するための補正データを得ること、を特徴とするユニフォーミティ試験における補正方法。

【請求項 2】測定ごとに 360° を該所定回数で割った角度ずつ前記タイヤの前記回転部に対する回転方向の取付角度を変え、

前記測定によって得られたデータは、前記回転部の回転角度に対する反力の変動を示す波形データであり、

前記複数回の測定により得られた波形データを、前記回転部の回転角度を揃えて合成し、次いでこれを該所定回数で割ることによって得られる波形データを該補正データとして得る、

ことを特徴とする請求項 1 に記載のユニフォーミティ試験における補正方法。

【請求項 3】あるタイヤのユニフォーミティ試験を行う際には、測定結果から前記補正データを差し引くこと、を特徴とする請求項 1 又は 2 に記載のユニフォーミティ試験における補正方法。

【請求項 4】前記回転部は、前記タイヤを挟み込む一対のリムと、前記一対のリムと一体になって回転するスピンドルとを含むこと、を特徴とする請求項 1 から 3 のいずれかに記載のユニフォーミティ試験における補正方法。

【請求項 5】前記試験装置は、前記一対のリムの夫々の回転原点位置を検出する手段を有すること、を特徴とする請求項 1 から 4 のいずれかに記載のユニフォーミティ試験及び動釣合試験における補正方法。

【請求項 6】前記所定回数は、2、8 及び 16 のいずれかであること、を特徴とする請求項 1 から 5 のいずれかに記載のユニフォーミティ試験における補正方法。

【請求項 7】タイヤを回転部に取り付けて回転させ、前記タイヤの回転に伴う前記回転部の振動を測定する試験装置を用い、

前記タイヤの前記回転部に対する回転方向の取付角度を変えながら、前記測定を複数回
行い、

複数回の測定により得られたデータを記憶し、当該記憶データを合成することによって、

測定結果から前記回転部の偏心とゆがみの影響を除去するための補正データを得ること

、

を特徴とする動釣合試験における補正方法。

【請求項 8】測定ごとに 360° を該所定回数で割った角度ずつ前記タイヤの前記回転部
に対する回転方向の取付角度を変え、

前記測定によって得られたデータは、前記回転部の振動の変動を示す波形データであり

、

前記複数回の測定により得られた波形データを、前記回転部の回転角度を揃えて合成し
、次いでこれを該所定回数で割ることによって得られる波形データを該補正データとして
得る、

ことを特徴とする請求項 7 に記載の動釣合試験における補正方法。

【請求項 9】あるタイヤの動釣合試験を行う際には、測定結果から前記補正データを差し
引くこと、を特徴とする請求項 7 又は 8 に記載の動釣合試験における補正方法。

【請求項 10】前記回転部は、前記タイヤを挟み込む一対のリムと、前記一対のリムと一
体になって回転するスピンドルとを含むこと、を特徴とする請求項 7 から 10 のいずれか
に記載の動釣合試験における補正方法。